

# One Day Pathology

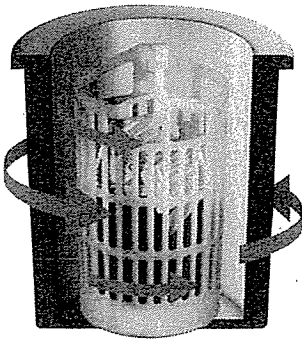
# 超速病理診断を開始

## 午前中集荷なら 当日報告も可能

ジェネティックラボグループのGLab病理解析センターは、検体受領から報告までを二十四時間以内に行う「One Day Pathology」GX超速病理診断サービスを開始した。通常は三―四日を要する病理診断が、午前中の検体集荷採取であれば当日病理診断も可能となった。

これまで、十四―十八時間かかっていたパラフィン標本作製工程を約一

### GLab病理解析センター



「ティッシュ・テック・エクスプレス」による、マイクロウェーブ照射で効果的な加熱処理

時間に短縮。関東以北では初めてという、連続迅速自動固定包埋装置「ティッシュ・テック・エクスプレス」採用。マイク

ロウエーブ照射を均一にし効果的な加熱処理が行える。専用の「検査―診断工程ライン」も導入し、

切り出しから標本作製まで専任スタッフによる管理と常勤認定病理医の診断で、早期診断・早期治療ニーズに応える。

午前十一時までの集荷であれば午後五時まで、午後四時までの集荷なら翌日午前十一時までに報告する超速のほか、翌日以降の指定日時報告に対応するサービスメニューも用意。

対象臓器は食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・胆膵管・肝など消化管生検(一部ポリペクトミ材料)、乳腺生検、泌尿器(前立腺)生検、子宮頸部・体部の婦人科生検、その他としている。

問い合わせは ☎011

ジェネティックラボが導入した病理標本作製のための新機器



### 特殊機器で最短4時間

# 病理診断 24時間以内に

バイオベンチャーのジェネティックラボ(札幌)は、病変の一部を切り取って調べる「生検組織診断」を二十四時間以内に行うサービスを開始した。従来、初回の診断報告までに数日から一週間を要していた時間を大幅に短縮。同社によると、二十四時間以内の診断は道内で例がないという。

サービス名は「GX超速病理診断」。通常、胃や大腸など患部の組織の一部を採取し、十数時間かけて薬品を浸透させ、強度を保つ処理が行われる。新サービスでは、東京の医療機器メ

### 札幌・バイオ企業 サービス開始

ーカーが開発した特殊機器を使用し、処理時間を一時間に縮めた。

例えば、午前十一時までに検体が持ち込まれた場合、最短四時間で常勤病理医が診断報告を出せるという。外来当日に、患者に検査結果を伝えられるほか、治療方針決定の迅速化にも役立つ。

機器購入など設備投資は約二千万円。同社には一日平均二百件の検体が持ち込まれるが、道内医療機関に利用を呼びかけ、徐々に新サービスの比率を上げていきたい考えだ。